

アクセサリー 〈ビンディ〉 A0308

インドのサリーとクルター



ビンディ

女性の額につけるビンディ。基本的には、ヒンドゥー教の結婚した女性（既婚女性）がつけるものであり、伝統的には赤い顔料で、小さな丸を額に描いていた。

ビンディは、もともと自分の属するヒンドゥー教徒の宗派をあらわす模様で、男性も女性も付ける宗教的な印であり、また悪霊から守護する役目も果たしている。

現在は、このようにシール状でファッショナブルのものが多く、サリーの色や文様に合わせてつける。

上羽先生からのひとこと

ヒンドゥー教の既婚女性は、夫が亡くなるまでビンディを額につけ続けます。そのため、インドの市場では、色や形の異なるビンディがたくさん売られています。子どもがつけることもあります。